

## 評価・振り返りはどうあるべきか

―教員が学生と向き合う時間を設定、そのとき学生は「じぶん」と向き合い、「次のじぶん」に向けて歩き始める

### 能力要素として明示化されていることの可能性

この章では、2章の「社会人基礎力教育の5段階ステップモデル」の第四・五ステップで紹介した振り返り・評価活動に関して、先進的な取り組みを紹介します。また、それに関連して「社会人基礎力」とは何か、その重要性を伝える「価値付け」の活動例についても紹介していきます。

「社会人基礎力」は能力概念ではあるものの、「3つの力、12の能力要素」として概念を言葉で明示化していることで、教育の中で教員が学生へ働きかける際の意識化や、学生にとっての自己確認など、オペレーション（操作）ツールとしての機能も持ちます。それらは、「社会人基礎力」の育成に有効となりますが、逆に使い方次第では育成を妨げる場合もあると想定されます。ここでは一つの章を取って、成功事例を整理し、紹介します。

### 評価は自己評価が中心、他者評価は自己評価のための介助機能

振り返り・評価は、基本的に「自己評価」が中心です。そもそも、どのような活動においても、振り返り・気付きはなされており、それを意識的（または無意識）に改善や成長につなげています。その意味では、「社会人基礎力」の育成では、こうした振り返り・気付きの場を意図的に設定することに大きな意味があります。

「評価」というと、選別や序列化の機能の部分に意識が向きがちです。しかし評価には、それ自体や、そこで提示された評価の観点を目標にして、自らのレベルを確認し、次の学習計画を決めるといような「育成」としての機能もあります。「社会人基礎力」の育成における振り返り・評価は、まず育成機能として用いられるのが望ましいと思われれます。ですから、評価の方法なども、いかに育成に貢献できるかという点で考えることが肝要でしょう。

他者による評価も、学生の気付きを促進するための機能として位置付けることがよいと思われれます。他者から見た自分を知ることが、さらなる気付きや成長につながります。また、心の中にあるものを引き出すメンタリング的な役割を、他者評価が担うことも考えられます。いわば介助機能を持つのです。他者評価が、「社会人基礎力」を高める場合も少なくなく、「社会人基礎力」教育の重要な手段として、有効に活用する方法を検討することが必要であると思われれます。

### 手間がかからず、効果もあることが大事

学生も教員も、評価にばかり気を取られるのは望ましくありません。手間がかかりすぎ

でも継続しません。手間のかかりすぎない評価をどのように行うかは、大きな課題です。「評価のための評価」でないという認識を持たせることも必要でしょう。また、単に「社会人基礎力」育成プログラムを受講したアライバイとして評価活動を使うのも望ましくありません。

当然のことながら、教員自身が振り返り・評価活動を行うことの意味を見出していることが重要です。自ら意義を見出していないと、効果も出なければ継続もしないと思われるからです。

### 身に付けてほしい力を具体的に示すと、学生の気付きを促すことができる

大学での研究・教育活動は、既にそれ自身が「社会人基礎力」の教育の場であるといえます。したがって、研究・授業活動に、振り返りがうまく活用されれば、「社会人基礎力」の向上にも、また研究・教育の取り組みを充実させることにも、効果的に作用するでしょう。

その際、研究・教育活動において、学生にとりわけ気付けて実践してほしいこと、または発揮し身に付けてほしい力を抽出・整理し、「社会人基礎力」に関連付けて明示化しておくことは、学生の気付きを具体的にするのにも、研究・教育活動の向上を促すのにも有効であると思われます。大阪大学大学院と金沢工業大学は、共に工学系の研究プロセスにおいて、学生に気付けてほしい点を「社会人基礎力」の12の能力要素の領域で独自に抽出することを試みましたが、これは、教員の「社会人基礎力」の考え方を学生に示すことに

もなり、学生を導く姿勢としても、「社会人基礎力」を教育に導入していく姿勢としても、大変意味があるものになりました。

一方、岐阜大学医学部看護学科は、既に病院の臨地実習の中で、専門分野の医療技術に關して行われていた振り返り活動に、「社会人基礎力」の観点も加えました。もともと振り返りの土壌があったので、実習先の病院も巻き込めたことが特色です。人材育成機関と受け入れ機関との関係が明確に成り立っている、医療分野ならではのシステムです。他の分野の場合は、どのように大学と受け入れ先との関係を作っていくかが大きな課題といえましょう。

さらに岐阜大学では、平成19年度に経済産業省から発行された「社会人基礎力」育成・評価のためのリファレンスブック『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』に掲載したシートをカスタマイズし、人間性領域としての「倫理」を入れているのがポイントです。技術者育成においても「技術者倫理」の重視が指摘されますが、市民性・公共性などにも通じる倫理項目を追加するなど、問題意識を持って「社会人基礎力」を取り入れようとすることは、重要なポイントであることを示す事例になっています。

### 教員が学生に、一受講者ではなく人として向き合う

また京都産業大学では、通常授業の中でも、授業と関連付ければ、「社会人基礎力」の振り返りを兼ねた日々の振り返りができることを示しています。跡見学園女子大学は、振り返りを通じた自己の理解や能力の理解を、「社会人基礎力」を用いて行ったケースとな

ります。

振り返りと連動して「社会人基礎力」の重要性に気付かせる、つまり価値付ける活動として、ガイダンスの実施も考えられます。本章では宮城大学が行った、1年次終了時に「社会人基礎力」の発揮を振り返りつつ、この先の大学生活、就職活動、その後のキャリアについて考え、今そのために何をすることが大切かを考えるガイダンスを紹介します。ガイダンスも含め、授業内に振り返りや価値付けの時間をどのように取り入れていくかについては、2章の諏訪康雄教授の Special Interview と、6章の静岡県の公立高校の事例があります。共に教員が学生・生徒一人ひとりを、受講生としてではなく一人の人間として捉え、向き合っていることが感じられます。高校の事例は、どの高校でも「総合的な学習の時間」などで使える方法ですが、大学においても十分使えるものと思われるます。

### 他者評価は、一つの教育の場。別の意味としても生かしたい

振り返り活動には、他者評価も含めて他者の存在が不可欠です。教員が学生の成長全体を見守り、評価活動を行う場合もありますが、第三者が加わることで、別の機能を持つ場として活用できる事例もあります。武蔵大学は、第三者との面談において、自己評価能力の育成まで視野に入れました。これは、5章の東海大学の紹介で言及する、「社会人基礎力」の育成としては世界的な先進大学といえるアメリカのアルバーノ大学が、既に取り組んでいるものです。将来、自ら「社会人基礎力」を高めていく力を付けようとしたものと

言えましょう。

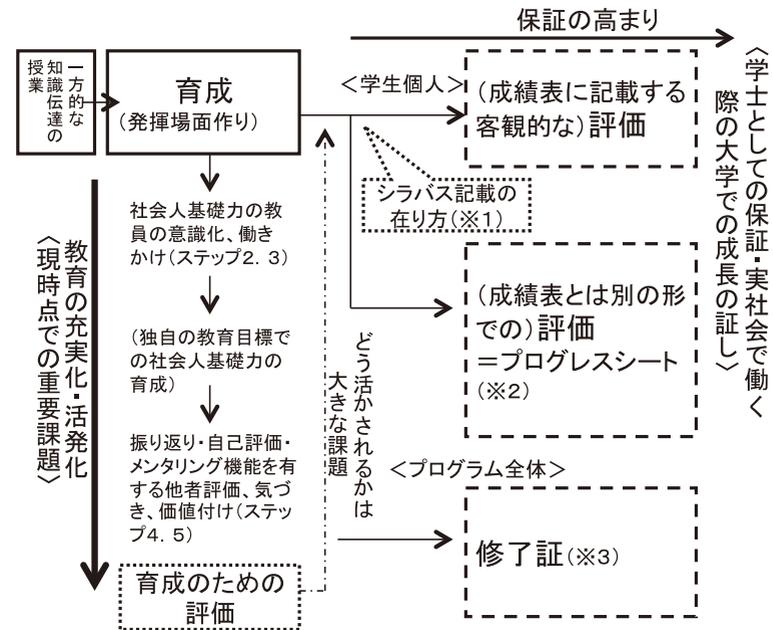
愛知学泉大学コミュニティ政策学部の場合は、振り返り活動を、仲間をほめ合うグループ面談として実施し、ソーシャルスキルと自尊心を高める、ある種のコミュニケーショントレーニングとして活用しています。よい記憶として「社会人基礎力」を記憶させることは一つの大事なポイントであると言えましょう。

### 大学独自の育成目標が、オーソライズされる

広島経済大学の場合、「社会人基礎力」教育を同校独自の目標設定（4つの「人間力」）で実施していますが、その教育のレベルを上げるために、気付きの場を設け、振り返りを行いました。それを「12の能力要素」で行うことで、同校独自の「人間力」が実社会の中でも位置付けられていることを学生、さらに学内外に知ってもらい、大学の試みを社会全体の中で位置付けようとしたものとなります。つまり、大学として決めた育成目標が、社会的にオーソライズされるのです。そのためにもさらに振り返り活動の履歴を、成長記録シート（プログレスシート）にきちんと束ね、学生に保存させています。科目内での活動や、プログラムをやり遂げた証しとして自信を付けることが大きな目的です。さらに、学生の就職活動の中でも社会に対して示せる証拠になればと考えているとのことで、実際自らの大学時代の成果として、企業に提出した学生もいるそうです。

社会人基礎力の育成における「教育の充実化」と「大学教育の質保証」について -2つの評価とは？

- 「評価」には、そもそも教育の充実化と質の保証(成績等)の側面があり必ずしもその両者は一致するとは限らない
- 現時点では、まだ教育の充実化・活性化が問われている段階。いかにそれに向けた議論・支援ができるかが課題(成績表、プログレスシート等、保証が教育の充実化を妨げる場合もあるので注意が必要)
- 成績表、さらにプログレスシートは、産業界に採用の主導権がある中で、学生の確固たる学習活動を守るためには、有効なツールとなる。作成法、活用法は、今後の課題。



※1 シラバス=シラバスは、「学生との約束」、「教育の質保証」を担うものである。したがって、各科目に育成する社会人基礎力が記載される場合は、成績評価は無視できない問題。形だけシラバスに育成される社会人基礎力が書かれるのは問題。  
 ※2 プログレスシート=学生の就職活動で用いる場合には、教員・指導者・第三者による他者評価・客観評価を記載するべきかは1つの課題。  
 ※3 修了証=プログラム自身が保証される仕組みの上に成立。就職活動では修了証とプログレスシートの併用も考えられる。

## 成績評価に、いかに社会人基礎力の発揮度合いを組み込むか

自己評価としての振り返りは重要ですが、一方、「社会人基礎力」が客観評価でなされることも、大きな意味を持ちます。客観評価は、教員が責任を持って「社会人基礎力」の育成を宣言することになり、

一方で、学生もそれを一つの目標にします。また、同時に教育の質を保証するものともなります。したがって、成績表の中で「社会人基礎力」を学生の評価の対象とすることは、大きな意味を持ちます。

チャレンジングな試みとしては、この4章では、プロジェクト活動を「チームワーク力」で見て、得点化していく方法を紹介しました(金沢工業大学)。また5章では、授業活動での「社会人基礎力」の各能力要素の発揮を知識面

の評価基準に換えて、新たな評価基準として採用していく方法を紹介しました。これが高く機能するようになれば、「社会人基礎力」は大いに広まる可能性があります(東海大学、アメリカ・アルバーノ大学)。また、「社会人基礎力」の「3つの力」に加えて「専門能力」「職業能力」「学習に取り組む姿勢・意欲」「こころの力」の7要素を、大学内すべての科目共通の評価軸として、成績に反映させる動きも紹介しました(日本文理大学)。

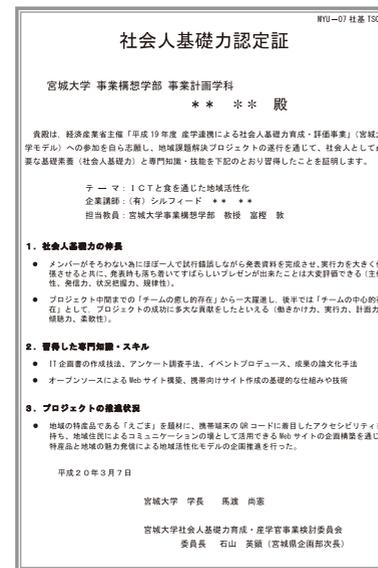
ところで、全学で統一的に「社会人基礎力」を育成させるための方法として、シラバスに明記する方法があります。しかしシラバスは、「学生との約束」事項であるゆえに、中途半端に「社会人基礎力」の育成を「大学としての決まり事」としてシラバスに明記していくのは、気を付けたいところです。大学の決まり事としてシラバスに明記するならば、単位取得に関わる成績評価をどう捉え、そのための評価方法はどうか、まず検討しておく必要があります。その意味で、東海大学や日本文理大学の試みは注目できます。

## 成長記録シート=プログレスシートは、まずは自己評価や自分の振り返りを中心に

単位取得につながる成績の付与の仕方は、改定が難しいこともあり、成績表とは別に成長記録シート(プログレスシート)を科目単位で作成し、それを科目受講修了証にしているという考え方もあります。プログレスシートは、学生が学習を振り返り自らの成長を確認するためのものですが、社会的な保証機能を持たせようとする際には、科目自体の質を高める必要があると思われれます。できれば、科目内容の質を第三者が保証する仕組みも必

## 宮城大学の社会人基礎力育成科目の修了証

—この他に、事前・中間・事後の自己評価などを記録してきた  
 プロGRESSシートのファイルが渡される



図版提供 宮城大学

要でしよう。大学の全ての科目の成績表ではないものの、科目（または取り組み）単位で高い教育レベルを保証すれば、社会的にも保証されるプロGRESSシートになりうる可能性があります。

かつて研究室推薦という形の就職がありました。それは研究室に実績があり、その研究室の学生であるというだけで、一定の教育の質が保証されていると見なされていたからこそ成り立っていた仕組みでした。そういう状況を、科目においても作っていくことが必要だと思われれます。つまり大学として、「社会人基礎力」を十分高められる科目を作り、その上で、大学と関連の強い企業にも理解を得てプログラムとしての評価を受けるとともに、それを受講した学生も評価してもらえるようになるという形が考えられます。その際、プログラムについては、複数企業から評価を受ける形が理想であると思われれます。そして、学生個人には修了証（上図参照）とともに、プロGRESSシートが用意されれば、学生の育成を保証できるものになりうることも考えられます。

その意味では、客観評価を検討することは大事ですが、まずは「社会人基礎力」の教育を高めること、そしてそのために、いかに成長につながる評価を工夫するかがポイントであると思われれます。プロGRESSシートとしても、まずは教員と学生の間で使われることが基本であり、その内容も、自己評価＝自分による振り返りの記録が中心であるべきでしょう。

## 「振り返り・評価」のためのシートの考え方 ↳ 授業の質を高め、社会人基礎力を定着に導く

「社会人基礎力」の振り返りと評価については、活用しやすいシートを用意するのが望ましいと思われれます。その際、シートのあり方とフォームは、振り返りと評価の考え方や手法に直接つながるため、「社会人基礎力」の育成の考え方や、方法と照らし合わせて検討することが必要になります。

## シートの構成はどのように考えるか

・ 授業やプロジェクト活動の振り返りを通して「社会人基礎力」を意識できるように、活動における「社会人基礎力」の発揮場面をエビデンス（＝行動事実、根拠）として書ける形にする

・ 育成したい能力をシートに明示することによって、振り返りとともに、意識付けや気付きができるようにする

・ などが考えられます。

平成19年度に、経済産業省と河合塾が提案した、振り返りと評価のためのシート類が次のページのサイトに掲載されています。

- ・ 活動の事前に書く「事前評価シート」
- ・ 活動中、および活動後に書く「中間評価シート」「事後評価シート」
- ・ 日々の振り返りを書く「活動記録シート」

